Ⅱ　平成30年度振り返り結果

１　施策評価

市では，令和７年を目標年次とする総合計画において，「ひと・まち・未来が輝き　世界につながるまち盛岡」という目指す将来像のもと４つの基本目標を掲げ，まちづくりの課題である29の施策を推進しています。

施策評価は，各施策が目的や目標に対し，どの程度推進されたか等の視点により評価しており，評価シートでは，施策の目標値に対する実績値の推移をグラフ化して示しています。この他，施策のもとに位置付けられた小施策の評価結果を踏まえ，成果と問題点を分析し，今後の方向性を示しています。

２　小施策評価

施策の目的達成に向けて取り組む課題を明確にするために，それぞれの施策のもとに91の小施策を位置付けています。

小施策評価は，各小施策が目的や目標に対し，どの程度推進されたか等の視点により評価しており，評価シートでは，小施策の目標値に対する実績値の推移をグラフ化して示しています。この他，実績の評価を踏まえた今後の方向性を示しています。

なお，評価シートは，盛岡市公式ホームページに掲載しています。

http://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/jichitaikeiei/gyoka/index.html

施策評価シートの見方

【施策評価（平成30年度実績評価）】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	① 人がいきいきと暮らすまちづくり
施　策	① 地域福祉の推進
施策主管部等	保健福祉部
評価責任者	村上　淳　保健福祉部長
評価シート作成者	藤澤　多津子　保健福祉部次長

総合計画の「基本目標」の通し番号です。

総合計画の「施策」の通し番号です。

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的（総合計画実施計画から転記）

誰もが住み慣れた地域で，それぞれの個性や尊厳を認め合いながら，共に生活を続けることができるように，地域住民が互いに支え合う地域社会の形成を推進する。

施策評価全体を踏まえた評価責任者意見

福祉課題は，地域の実情によって異なり，的確に現状把握をし，解決に導く必要がある。地域福祉コーディネーターの設置を着実に進め，地域力を高めながら，個別支援だけでなく，地域資源を活かした仕組みづくりを推進し，各分野の相談支援機関などが有機的に連携できるような仕組み（地域トータルケアシステム）を構築して，「共に支え合うことができる地域環境づくり」に取り組んでいく必要がある。

施策の全体を見た大きな視点で評価し，長期的な展望や特に注力すべき取組などを記載しています。

施策の概要

主な取組内容

平成30年度の主な取組内容を記載しています。

・地域福祉コーディネーターを中心とした市内の相談支援機関が，民生委員や包括支援センターなどから寄せられた相談ごとを連携して支援できる体制を構築している。また，「地域力強化推進事業」として，モデル地区を複数選定し，地域住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを支援している。さらに，高齢者や子育てをしている者を地域で支える取組としてシルバーサロン事業の推進及びボランティア養成等に取り組んでいる。
・地域における日常生活の支え合いの可能性を高めるとともに，コミュニティベースの経済循環にも寄与する仕組みの構築に向けた自主財源の確保策等について調査研究することを目的とした「地域福祉の推進とコミュニティ経済の循環促進調査研究事業」にモデル地区を選定して進めた。
・災害の発生に備え，避難行動要支援者名簿を毎年更新して，災害時の支援が必要な方の把握に努めている。
・地域福祉を支える人材の育成に取り組み，地域福祉や地域共生社会の形成促進を図っている。

対象（誰（何）を対象として行うのか）	⇨ 意図（対象をどのようにしたいのか）
支援を必要としている市民	支援を必要としている市民が，福祉サービスを適確に受けられる。
地域	共に支え合うことができる環境が地域に醸成される
市民	仕組みと地域環境をつくり，支える人材が養成される。

施策の成果指標の状況・評価

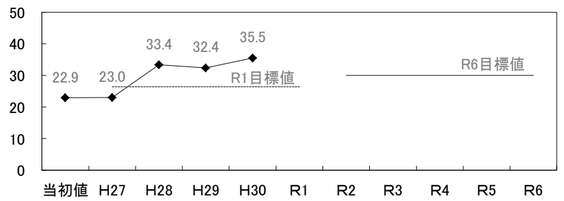
施策の進捗状況を客観的な数値で表した指標を設定し，目標達成度を評価する判断材料としています。

「↗」は実績値を上げていくことを，「↘」は実績値を下げていくことを，「→」は当初値を維持していくことを目標とするものです。

実績値の推移

		単　位	目指す方向
指標①	まちづくり評価アンケート調査「福祉サービスが適切に受けられる」と答えた市民の割合	%	↗

当初値（H26）	R1目標値	R6目標値
22.9	26.4	30.0



※H27に新しく設定した指標

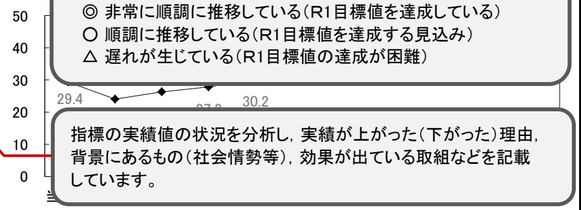
進捗の評価

◎ 非常に順調に進捗している（R1目標値を達成している）

当初の目標値を越えて福祉サービスが適切に受けられると回答している背景には，高齢化社会の進展により，介護サービス等を受けたいと考える方，もしくは家族に受けさせたいと考える方が増加し，地域における福祉サービスの需要が高まっていることが背景にあると考えられる。
また，ゴミ屋敷など，複合的な要因により解決困難な事例に対しても，多様な支援機関同士が，連携して取り組み，社会福祉協議会や民生委員などを通じて，地域に浸透しつつある。
今後は，多様な福祉ニーズや，複雑化した生活課題を包括的に受け止めるための窓口の活用を促進するとともに，地域課題を地域で解決できる地域力強化の取組を広げる必要がある。

実績値の推移

		単　位	目指す方向
指標②	まちづくり評価アンケート調査「地域で支え合いが進んでいる」と答えた市民の割合	%	↗



※H27に新しく設定した指標

進捗を3段階で評価しています。
◎ 非常に順調に推移している（R1目標値を達成している）
○ 順調に推移している（R1目標値を達成する見込み）
△ 遅れが生じている（R1目標値の達成が困難）

指標の実績値の状況を分析し，実績が上がった（下がった）理由，背景にあるもの（社会情勢等），効果が出ている取組などを記載しています。

進捗の評価

○ 順調に進捗している（R1目標値を達成する見込み）

これまでの取組が功を奏し，平成27年度以降，地域での支え合いが進んでいると答えた方が年々増加している。
これは，ふれあいサロンの開催等が年々増加していることや，地域福祉コーディネーターが主体となって地域力強化に向けた取り組みを進めていることにより支え合いが進んでいると答える方が増加しつつある。
ただし，未だ，目標値を下回ってる状況であることから，今後は目標達成に向け，地域住民が自主的に支え合えるような環境づくりについて，関係機関と連携して更に進める必要がある。

進捗の評価（3段階）：◎ 非常に順調に推移してい　ている（R1目標値を達成する見込み），△

施策のもとに位置付けられた小施策です。（数字は総合計画の「小施策」の通し番号）

小施策評価の結果を踏まえ，小施策毎の成果点・問題点を記載しています。

左欄の成果点・問題点を基に，今後の方向性を記載しています。

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小　施　策		成果点・問題点	今後の方向性
1-1	支援を必要とする人が福祉サービスを受けられる仕組みづくり	【成果点】 地域福祉コーディネーターによるごみ屋敷への対応など，複合的な要因により解決困難な事例に対し，必要と思われる部門と連携して，必要なサービスに結び付ける仕組みの構築が推進された。また，多様な支援主体が相互に連携できる体制の構築が推進された。 【問題点】 ひきこもり者を抱える世帯などは，問題が表面化しにくく，相談につながりにくい。	多様な支援機関が包括的に支援する体制を構築するため，地域福祉コーディネーターの増員を目指すとともに，多様な機関が連携しやすい体制づくりを推進する。 また，民生児童委員の相談業務の複合化・多様化等により，見守りなどの事例が増加していることなどから，包括的な相談窓口の周知や活用を図り，必要な福祉サービス等の利用につなげていく。
1-2	共に支え合うことができる地域環境づくり	【成果点】 全国的に災害が発生している中，災害発生時に避難行動をとる際の補助となる「あんしん連絡パック」を配布した。 【問題点】 個人情報の流出を懸念する方等により，避難行動要支援者情報提供同意者の人数が増加しない。	従来事業を継続するほか，寝たきりの要支援者の把握の方策について検討し，導入する。
1-3	地域福祉を担うひとづくり	【成果点】 将来の地域福祉活動の担い手である高校生に地域福祉人材育成事業の養成講座への参加を広く呼びかけ参加校が増加した。 【問題点】 ボランティア登録する個人の人数の伸びが少なく，ボランティアの活動についての更なる周知・啓発が必要と考える。	引き続き地域福祉人材育成事業等の各事業に取り組み，地域福祉を担うひとづくりを推進する。